

氏名	藤岡美絵
学位の種類	修士(看護学)
学位記番号	修士第116号
学位授与年月日	平成21年3月25日
学位論文題目	里帰り分娩に伴う妊産婦と母方祖母の疲労について の縦断研究

## 論 文 内 容 要 旨

※整理番号	120	(ふりがな) 氏 名	ふじおか みえ 藤岡 美絵
修士論文題目	里帰り分娩に伴う妊産婦と母方祖母の疲労についての縦断研究		
<p>I. 目的</p> <p>里帰り分娩をしている妊産婦と母方祖母の疲労の差や推移を明らかにすること。</p> <p>II. 方法</p> <p>1. 研究デザイン</p> <p>本研究は量的記述的研究で、妊娠期から産後 8 週目までの 5 地点の縦断調査を行った。</p> <p>2. 研究対象</p> <p>京都市内の 4 つの産婦人科を有する施設に通院する妊産婦のうち、出産後に里帰り分娩を予定し、研究協力の同意が得られた妊娠 32 週から 38 週の初妊婦とその実母である母方祖母を対象とした。</p> <p>3. データ収集方法</p> <p>妊娠期集団健康教育の際や妊婦健康診査受診時に対象者を募り、研究協力の同意を得た。同席していない祖母については、妊産婦に紹介を依頼し、後日研究協力の同意を得た。データ収集は、家庭訪問及び郵送にて行った。</p> <p>4. 調査内容</p> <p>身体活動量として歩数と運動量をライフコーダにて、客観的疲労として唾液アミラーゼ活性を、妊娠期と産褥 3 週目の 2 地点で測定した。自覚症状による主観的疲労、精神健康度による精神的疲労は 5 地点において自記式質問紙にて調査した。主観的疲労の測定には新版「自覚症しらべ」を使用し、精神的疲労の測定には日本語版精神健康調査票短縮版 (GHQ28) を使用した。また、妊産婦には日本語版エジンバラ産後うつ病自己評価票 (EPDS) も併用した。</p> <p>III. 結果</p> <p>1. 身体活動量は、妊産婦より祖母の方が多く、妊産婦は妊娠期に比べ産褥 3 週目は減少するが、祖母は妊娠期と産褥 3 週目で変化はなかった。</p> <p>2. 唾液アミラーゼ値は、妊娠期には差はなかったが、産褥 3 週目には妊産婦より祖母の方が高く、推移は、両者とも妊娠期に比べ産褥 3 週目に増加した。</p> <p>3. 主観的疲労のうち、眠気は、産褥 2 週目と産褥 8 週目には妊産婦の方が祖母に比べ高かった。また、その推移は、妊産婦では、産褥 2 週目に増加し、産褥 3 週目に減少する傾向にあった。一方、祖母は、眠気が妊娠期に比べ産褥 3 週目特に強かった。</p> <p>4. 精神的疲労を示す GHQ 得点は、各期を通して明らかな差はなかった。</p> <p>IV. 考察</p> <p>本研究の結果から、祖母は、産褥 3 週目において身体活動量と客観的疲労は妊産婦より高いに</p>			

も関わらず、主観的疲労として出現しにくいことが示された。したがって、妊産婦の里帰り中、祖母は疲労を自覚しにくい可能性があるため、妊産婦に対する支援だけでなく、妊産婦にとっての重要他者である祖母に対しても、これらの特徴や年齢的な背景を踏まえ、健康状態や精神状態にも注意してケアしていく必要性が示唆された。

#### V. 総括

本研究により、妊産婦の里帰り中、祖母も妊産婦同様に産後には疲労していたことから、母子及び家族が心身ともにより健康な状態で新たな家族を形成していくために、我々は祖母の心身の健康状態にも着目する必要があることが示唆された。里帰り中などの一時期に祖母に負担をかけすぎないように、妊産婦や夫、祖母自身にも働きかけることで、祖母がより健康で長期的に妊産婦の心身や育児の効果的な支援ができる一助となると考える。

- (備考) 1. 研究の目的・方法・結果・考察・総括の順に記載すること。(1200字程度)  
2. ※印の欄には記入しないこと。